

## 6. 調査結果のポイント

「大学等進学時の行動や考え方」、「就職時の行動や考え方」は、回答者のうち、愛知県から東京圏に転出（又は東京圏から愛知県に転入）したタイミングにより、以下の類型ごとに集計・分析を行った。

現在の居住地	類型		該当者数
東京圏	進学時流出型	大学等への進学の際に東京圏に転出	75
	就職時流出型	最初の就職の際に東京圏に転出	42
愛知県	卒業時Uターン型	東京圏の大学等に進学し、就職等でUターン	32
	就職後Uターン型	東京圏の企業等に就職した後Uターン	34
	ずっと愛知型（※）	愛知県から転出していない	208

※「ずっと愛知型」は業務委託先の三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が平成29年12月27日から28日までに実施した独自調査の結果によるもの

### ◆大学等進学時の行動や考え方

- ・ 「進学時流出型」の女性が東京圏の大学を選択した理由は、「親元・地元を離れたかったから」（25.3%）、「学びたい学部・学科があった、学びたい教授・講師等がいたから」（21.3%）、「東京圏で暮らしたかったから」（14.7%）の順に高い。（別添調査結果P3）
- ・ 進学先を決める際に誰の意見を参考にしたかをみると、「ずっと愛知型」は「進学時流出型」に比べ、「母親」の意見を参考にした割合が高い（ずっと愛知型：28.9%、進学時流出型：13.3%）。（別添調査結果P4）

### ◆就職時の行動や考え方

- ・ 就職した理由について、東京圏の企業等に就職した「就職時流出型」では「やりたい仕事があったから」（47.6%）が最も高く、愛知県の企業等に就職した「卒業時Uターン型」や「ずっと愛知型」では「自宅から通勤したかったから（親元・地元を離れたくなかったから）」（卒業時Uターン型：32.1%、ずっと愛知型：55.7%）の割合が最も高い。（別添調査結果P5）
- ・ 就職先を決める際に誰の意見を参考にしたかをみると、「就職時流出型」では、7割程度（69.0%）が「特にない（自分で決めた）」としているのに対し、「卒業時Uターン型」では、「特にない（自分で決めた）」は5割強（53.6%）に留まり、「母親」の意見を参考にした割合（32.1%）が高い。（別添調査結果P6）
- ・ 就職当時のキャリア形成に対する考え方について、「就職時流出型」は、「ずっと愛知型」に比べ、「キャリアアップ志向が強かった」（就職時流出型：28.6%、ずっと愛知型：8.7%）、「キャリアアップ志向は強くなかったが、結婚・出産後も働き続けたかった」（就職時流出型：38.1%、ずっと愛知型：15.3%）の割合が高い。（別添調査結果P6）

◆働き方に関する考え方

- 希望する結婚後・出産後の働き方をみると、「結婚・出産後も同じように働きたい」の割合は、東京圏在住者（26.4%）が、愛知県在住者（20.3%）を上回っている。一方で、愛知県在住者は、東京圏在住者に比べ、「結婚後は仕事のペースを落としたい」（東京圏：24.9%、愛知県：31.2%）、「出産後は仕事のペースを落としたい」（東京圏：32.7%、愛知県：41.6%）の割合が高い。

（別添調査結果P10）

◆東京圏・愛知県で働くことに関する考え方

- 働く環境が整っているかについて、東京圏では、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」（74.8%）、「女性にとって職業の選択肢が多くやりたい仕事ができる」（67.3%）、「転職・起業のチャンスが多い」（66.8%）が上位に挙げられており、仕事の内容や活躍の機会、職場環境に関する項目で愛知県を大きく上回っている。
- 一方で、愛知県では、「雇用や給料が安定している」（46.0%）、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」（45.0%）、「職場と勤務地が近く、混雑も少ないなど、通勤環境が良い」（38.6%）が上位に挙げられており、通勤環境の良さやワーク・ライフ・バランスに関する項目で東京圏を上回っている。

（別添調査結果P12）

◆東京圏・愛知県で暮らすことに関する考え方

- 暮らす環境が整っているかについて、東京圏では「公共交通機関が充実している」（92.3%）のほか、「夜遅くても買い物や飲食、娯楽を楽しむことができる」（91.0%）、「最先端の文化・芸術や流行に触れることができる」（91.0%）が上位に挙げられており、娯楽・文化に関する項目で愛知県を大きく上回っている。
- 一方で、愛知県では、「自動車でどこへでも移動できる」（81.2%）、「住宅の住み心地が良い」（66.3%）、「都市と田園双方の魅力を堪能できる」（65.8%）が上位に挙げられており、東京圏を大きく上回っている。（別添調査結果P13）

◆若い女性が愛知県に定着するために必要なこと

- 若い女性が愛知県に定着してもらうために必要なことについて、東京圏在住者・愛知県在住者ともに、「仕事と育児の両立を支援する企業等の制度や職場環境の整備」（東京圏：49.2%、愛知県：51.0%）の割合が最も高く、次いで、東京圏在住者では、「女性が活躍できる環境をつくる」（東京圏：34.9%）を上位に挙げている一方、愛知県在住者では、「保育所の整備など、子育て環境の充実」を上位に挙げており、その割合が東京圏を大きく上回っている（東京圏：26.6%、愛知県：40.6%）。（別添調査結果P15）